

(別紙様式＝中学校用)

都道府県番号	14
都道府県名	神奈川

(① ② ③)

I 学校名及び規模

学校名	相模原市立麻溝台中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	1	14	25
生徒数	140	144	167	1	456	

II 研究の概要

(1) 研究主題

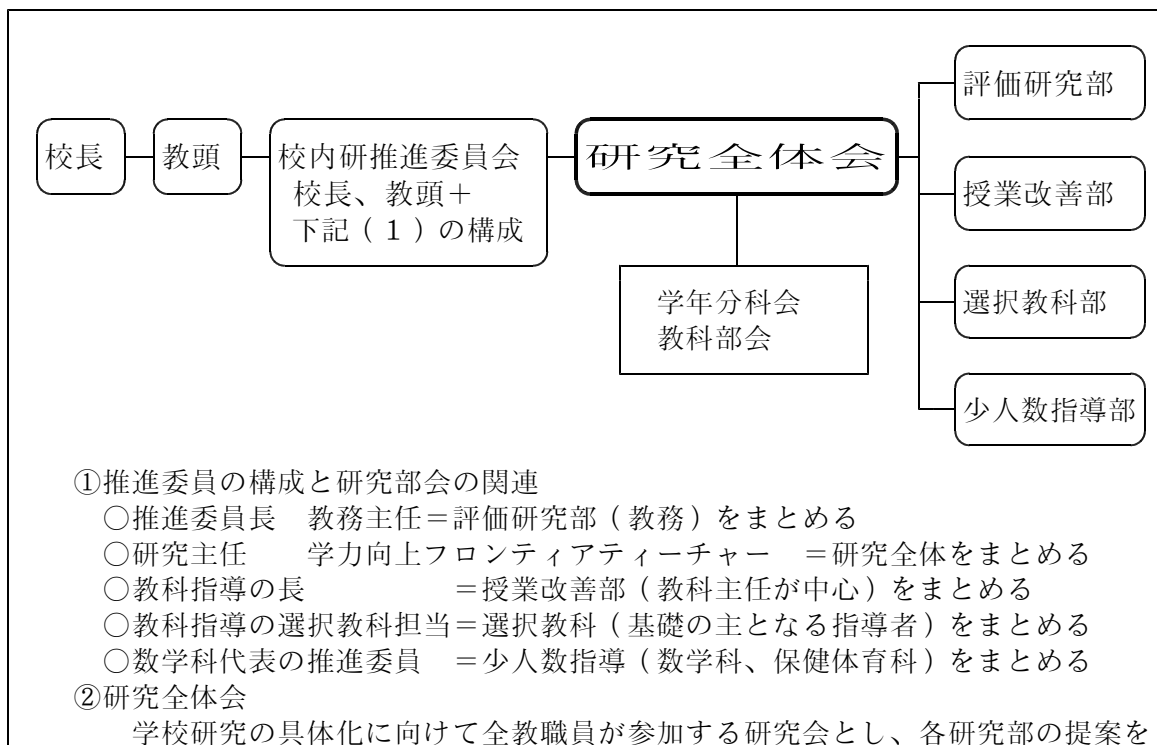
わかる授業で楽しい学校づくり
 －学ぶ意欲、学ぶ力を育む授業改善を通して－

(2) 研究主題設定の趣旨

本校生徒の学習実態から学習意欲の向上、学習力の向上、思考力の向上などが課題としてクローズアップされた。学習への動機付けをするには、一人ひとりを見取り、ていねいな学習づくりが不可欠であると考え。生徒が学ぶ楽しさを知り、自ら学ぼうとする意欲がわくような学習指導をめざし「わかる授業で楽しい学校づくり－学ぶ意欲、学ぶ力を育む授業改善を通して－」を課題とした。

III 研究の概要

(3) 研究推進体制の工夫



受けて学年体制の分科会や教科部会でさらに具体的な実践内容を検討する。

(2) 研究の実際

○ 具体的実践の手だて・実践例

① 指導方法の工夫

生徒が見通しを持った学習や自己の振り返りががきやすいよう「ゴールチャート」を活用する

② 個に応じた手だて

習熟度別授業、領域選択（数学）、種目選択（保体）

差異に応じた課題の用意（ノートの使い方、読み方の指示、範囲、回数の違い、難易度別宿題）

録音テープサービス（ALT録音）

CをBにする手だてを具体的に（例：先生に口頭で説明する・再テスト・練習課題提出）

小テストの間違い直しや再チェックでポイントプラス

③ 評価の工夫

評価を可能にする「活動のある授業」を計画する。（年間指導計画・評価規準表）
日常の見取りを生徒・保護者に伝え、がんばりどころを押さえさせ意欲を持たせる

・・・学習カルテ的ゴールチャートの評価欄、保護者チェック欄を使ってノートの点検に評価カードをはさんで返却／ワークシート、レポートなどにコメント記入し返却

テストの工夫：様々なパフォーマンステスト、定期テストに資料持ち込み可のテスト、教科にあったテスト時間の選定

自己評価・相互評価力をつける（発表で積み重ねる・教師のコメントで良い例を示す）

座席表活用、オリジナル名簿（観点別評価の項目で枠がついている）

(3) 研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

① 授業改善の成果

ア 研究構造図が具体的になり、本校の基礎・基本のとらえを定義できた。

イ 授業改善の視点を3つにしぼって研究授業、研究討議を行うことで異なった教科の実践から学びあったり、意見交換をすることができ授業改善への共通意識を持てた。

② 数学科の少人数指導の成果

ア 4人で2クラスを同じ時間帯で指導する指導体制により、様々な指導形態を試みることができた。単元の性格や生徒の実態に応じて最も効果的な方法を組み合わせることができた。

イ 生徒実態調査の結果を見ると、**数学へ興味を持つ生徒は38%**と全教科の中で一番高い。

また、**少人数授業の方がわかりやすいとする生徒は一斉授業の方がわかりやすいという生徒より48%も上回る**。より個に応じる形態の成果と思われる。

ウ 入学当初に行ったNRT（標準学力検査）では全国の通過率と比べるとどの問題も1～3ポイント下回ったが、1月のテストの中で13年度教育課程実施状況調査と同一問題をだしてしてみると、**通過率が全国平均より13%も上回る問題もあり**、一定の成果が伺える。

③ 保健体育科のTT指導の成果

ア 領域選択、種目選択などを通して課題解決学習を経験でき、生徒の興味関心、スキルの向上につながっている。

イ 3年間の指導計画、評価規準、生徒の学習カードが完成度が高く、指導と評価が一体化しているため、生徒の学習への関心度を高めているのが実態調査結果か

らもわかる。

データ：「自分なりに工夫しながら発表している時に楽しいと感じたり、技能や記録が伸びると時にうれしいと感じる」・全校79.1%、3学年89%の生徒が肯定している。

④本校独自の観点別評価ソフトが改善され、評価への共通理解、効率化につながった。

⑤生徒実態アンケートでの目標設定した項目に顕著な数値の向上が見られた。

データ：「わかる授業で楽しい学校づくり」という視点

● 学校生活は楽しいか 肯定的意見が7.2ポイントアップ

・楽しい・まあ楽しい

H13(57.4%)→H14(65.2%)→H15(72.4%)

● 授業の理解度 肯定的意見10.3ポイントアップ

・わかる・だいたいわかる H14(51.9%)→H15(62.2%)

・わからない・ほとんどわからない H14(13.9%)→H15(12.0%)

2. 課題

1 授業改善について

①各教科レベルで実践を深める（各教科で教科の学力向上の手だてを捉え、生徒理解のうえにたった対応を見通しを持って取り組む。）

②ゴールチャートの改善を通した指導と評価の一体化（生徒自身が見通しを持った学習、振り返りができるよう、またその結果が指導者が生徒一人一人を見取って指導改善につながるよう実践を続ける。）

2 少人数指導について

①生徒に適したコース設定と生徒が自分に適したコース選定ができる手立て

①個人差に応じ、どんな複線型の素材を用意すればよいか、教材づくり

②思考力を高める発問、授業展開の工夫

④コースにわけたあとの評価の方法

3 学習環境づくりについて

自己学習力を高める指導、家庭での学習時間の増加を促す手だてなど、学習活動の継続性を作る出すよう支援する、

(4) 研究成果の普及の方策

・神奈川県教育課程研究会 全体会で取組みについて発表

・高相地区対象 公開授業研究会（数学・保健体育）

・平成16年2月 中間まとめの研究紀要作成・配布

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級

7～9学級 10～12学級

13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導

その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科

外国語 音楽 美術 技術・家庭

保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

授業改善の方策として、ゴールチャート（見通しをもった学習ができるように新しい単元の前に単元の学習のねらいを生徒に知らせるプリント）を作成している。